

# 特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

## 目的

### 【課題】

- ・市内小・中学校と幼児教育施設、福祉・療育施設との連携を図るシステムを構築する必要がある。
- ・市内小・中学校と幼児教育施設で策定している個別の教育支援計画、個別の指導計画の統一化を図る必要がある。

### 【目的】

- ・特別な支援を必要とする子供のための支援体制をネットワーク化することで、相互連携を強化する。
- ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の視点や内容を統一することで情報を共有しやすくする。



## 成果

- ・市内小・中学校と幼児教育施設、福祉・療育施設、県立特別支援学校をつなぐ活動として、関係全施設への訪問、合同研修会、情報共有会、個別の教育支援計画の共同作成等を行い、既存の筑西市保幼小連絡協議会に限定しない「切れ目ない支援体制」のためのネットワークを構築した。
- ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の書式統一化により、ケース会議等の視点の共有を図ることができた。支援方法の共有化により、支援の焦点化を図ることができた。
- ・発達段階に応じた適切な学びの場の決定や見直しに必要な事例研修会を実施できた。

### 【今後の取組】

- ・「県立特別支援学校地域連携体制構築事業（茨城県）」における「チャレンジ研修会」に参加したり、情報共有したりすることで効果的に連動できるようにする。
- ・「特別支援教育推進体制充実事業（茨城県）」における特別支援教育コーディネーター連携会議と連動させ、事例研修会や学びの場の検討会議の質を向上させる。

## 事業内容

- ・市こども部局と連携し情報を共有することで、早期教育相談支援体制ネットワークの確立を図った。また、市教育委員会より相談用保護者案内を作成し、各幼児教育施設から保護者へ周知したり、市広報誌への就学相談案内を掲載したりして、周知方法を工夫した。
- ・全幼児教育施設、福祉・療育施設へ訪問し、市教育委員会が各学校とつなぐコーディネートを行った。また、研修会等で各関係機関の効果的な連携方法の紹介と啓発を行った。
- ・要望に応じて、各小学校での就学相談を設定し、情報共有や意見交換を行った。
- ・筑西市保幼小連絡協議会研修会と連動し、個別の教育支援計画、個別の指導計画の効果的な引継ぎ方法の啓発を行った。
- ・福祉・療育施設における切れ目ない支援につながる講演会の講師を行った。  
(題目：就学相談の流れと地域小学校での支援について)
- ・就学時健康診断で特設ブースを設営し、切れ目ない支援体制について周知したり、就学相談を実施したりした。

### 筑西市における特別な支援を必要とする子供への支援体制

